

# かわにし事業ディスカッション2014 まとめ

## 交通安全啓発事業

市民生活の視点	暮らし
政策	住む
施策	交通安全の施設整備と啓発を行い、交通事故を減らします。
所管部・課	都市整備部まちづくり推進室道路管理課

### 1. 事業における課題

交通安全指導については、就学前、小学校、高校、高齢者と幅広く行っているが、中学生の所が薄くなっている。  
現在の交通安全指導員の体制が十分なのかどうか。

### 2. メンバーによる事業についての課題

日常生活の中で交通安全を意識できるような啓発を行う必要がある。  
傾斜の有無や自動車交通の量など、地域特性に合わせた効果的な啓発活動が必要である。

### 3. 課題解決策・具体的な内容

#### 1. 啓発活動の連携

高齢者に対しては、老人クラブ等の高齢者が集う団体を通してチラシ等を配布する。  
子育て世代には、子育て・家庭支援課の自主サークルで講習会を行う。  
中学生・高校生に対しては、学校を通して自転車マナーを守るよう呼びかけてもらう、チラシの配付、ポスターの掲示をしていただく。  
自転車保険加入の取次店で、購入の際に自転車保険に関するチラシを配布してもらう。

#### 2. 啓発方法の多様化

交通安全を文章にすると読んでもらえることが少ないので、漫画を作成して各学校に配置するなどすれば読みやすくなる。  
市のキャラクター等を活用し、夜間の歩行や自転車乗車の際に身につけるキーホルダーなどを作成する。  
若年世代が参加するイベントで、シミュレータを用いた体験などを行う。  
交通安全のホームページを充実させ、交通安全啓発について多くの方に発信する。

#### 3. 市民交通安全指導員の養成

公募、NPO、自主サークル、自治会で交通安全の講習会を開催して、指導員の裾野を広げていく。各団体で日常的に講習や指導を行えるように、市民の中に交通安全指導ができる知識や資格を持つ人をつくっていく。

### 4. その他（事業改善へのアイデアなど）・具体的な内容

#### 1. 交通事故マップの作成

地域の特性に応じた啓発を行っていくために、各地域の事故多発地帯をまとめたマップを作成し、自治会や学校、子育て自主サークル等で配布する。  
警察と協力し、地域別の事故原因の分析を進め、啓発内容に反映させる。

#### 2. チェックリストの作成

高齢者に、運転能力低下の自覚、意識をしていただくために、自動車運転能力チェックリストを作成して健康診断などの機会に配布する。

<p><b>5 . 施策反映の経過報告</b></p>
<p>3 - 1 - について  高年齢者を対象とした交通安全教室の開催について、老人クラブを通して案内をおこなっているため、担当課や老人クラブと協議し、啓発チラシ等の配布についても検討する。</p>
<p>3 - 1 - について  自主サークルに対しては希望に応じて交通安全教室を実施しているが、さらに子ども・家庭支援課からの情報提供を受けて、受講団体の充実を図る。</p>
<p>3 - 1 - について  中学生、高校生は自転車に乗る機会も多いと考えられるため、自転車のルール・マナーについて、年代に応じたチラシやポスターを作成し、学校を通しての配布や掲示を検討する。</p>
<p>3 - 1 - について  自転車保険の必要性や自転車事故の判例などをチラシ等でまとめ、自転車販売店等を通じた配布により自転車保険の加入促進に努める。</p>
<p>3 - 2 - について  漫画を作成するためには一定の技術が必要であり、作成については難しい部分はあるが、交通安全について認識してもらうことが最も重要であるため、見て、理解してもらえるチラシ、ポスター作成時に漫画の内容を含めることができないか検討する。</p>
<p>3 - 2 - について  きんたくんをデザインした反射材のキーホルダーは作成し、配布しているが、さらに市民に身につけてもらえるような啓発物品の作成を検討する。</p>
<p>3 - 2 - について  交通安全のイベント（交通安全フェア）を開催し、中学生の吹奏楽部を招待するなど、若年世代も気軽に参加できるような取り組みはおこなっている。交通安全フェアや川西市の他のイベントには川西警察・川西交通安全協会が参加し、シュミレータ を使用した啓発もおこなっているため、今後についても内容の充実を図る。</p>
<p>3 - 2 - について  ホームページは手軽に閲覧できるため、交通事故の状況や交通安全啓発についてのイラストや写真を掲載し、多くの世代が日頃から交通安全を意識できるような内容を検討する。動画については市町村が発信する動画のアクセス数などを把握し、効果的であれば作成の検討を進める。</p>
<p>3 - 3 について  交通安全指導については道路交通法等がもとになっており、一定の知識・経験を必要とする。誤った指導は危険な言動につながるため、地域での指導員の育成ということは難しいものとする。地域で開催する川西警察や川西市交通指導員の専門的な講習をもとに交通安全啓発をおこなうことが効果的とする。</p>
<p>4 - 1 について  川西市内の事故件数や年毎の事故発生状況を考えると、各地域毎の事故多発地帯をまとめたマップ作成は難しいものとする。川西市内の事故の発生状況や主な事故事例等をまとめた啓発チラシの作成を検討する。</p>
<p>4 - 2 について  自動車運転者が自身の運転能力を自覚することは、交通安全を図るうえで重要なものとするため、チェックリストの作成を検討する。健康診断等の他部署が関係する機会での配布は難しいと思われるが、高齢者の交通安全教室でチェックリストを使用するなど、自らの行動を振り返ってもらう教材として使用できないか検討する。</p>